

図書館だより



目次

図書館長挨拶	図書館長 一宮一夫	2
学生図書委員の活動紹介	学生図書委員 (委員長・副委員長)	2
思い出の一冊	一般科文系 内田龍之介・桑山隼人・野間由梨花	4
	一般科理系 伊野翔次・倉持凜人	5
教員推薦図書一覧		6
令和5年度読書感想文コンクール 表彰式		7
令和5年度読書感想文コンクール 入選作品・講評		8
令和5年度学生図書委員名簿		12
令和5年度読書感想文コンクール入選者及び貸出上位者・貸出上位クラス		12
編集後記		12

図書館長 挨拶

都市・環境工学科 一宮 一夫

およそ3年間に渡るコロナ規制も緩和され、従前通りの図書館活動に戻りました。大分高専の図書館には一般・専門図書に加えて、本校の特色ある教育である「アグリエンジニアリング教育（専門性のある工業技術の深い修得を前提として、農学や農業の基礎を広く俯瞰し、いきものを扱う難しさと喜びを知り、生産をシステム全体としてデザインする経営の視点を持った工業技術者の育成）」や「災害レジリエントマインド育成教育（エンジニアの責務を理解して専門技術の高度化で貢献しようとする強い意志と基盤的知識を持った人材を育成）」に関するコーナーも設けられています。また「英語多読（辞書に頼らず、題材を楽しみながら大量に読むこと）」に関する教材も充実しています。「大分高専の心のオアシス」として図書館を積極的にご利用ください。

学生図書委員の活動紹介

お元気ですか？ 学生図書委員です。冬ですね。気温も低くて風も強い日には読書をしたくなります。でも、読書してやるぞ、と思ってもつついYouTubeとか見ちゃいますよね～。

さて、初対面の人と交わすような中身の無い話はここまでにして、これから図書委員会が行なっている活動を紹介していきます。と思います。

(4M 工藤)

学生図書委員会

図書委員会は前期・後期でそれぞれ1回ずつ集まり、さまざまなことを決定します。例えば、委員長・副委員長の承認や、読書感想文コンクールの審査員選定、活動の内容確認などです。

(4M 工藤)

読書感想文コンクール

今年もたくさんのご応募ありがとうございました。今回私は初めて審査員を務めさせて頂いたのですが、人の書いた文章をいくつも読んで評価すると言うのは、自分にはない視点で選んだ本や考えを知る事ができて新鮮な体験でした。読書感想文が課題で出る時期は過ぎてしまいましたが、本を読んだ後に感想を書き残しておくと言うのも良いですね。教訓めいた事を書かなくてもこの文章が良かったとか、読んでいるときに考えた事とか、そんな事で良いと思います。

(5E 日野)

ブックハンティング

ブックハンティングとは、図書館の蔵書に無い本を図書委員一人につき5冊まで注文できるという制度で、年二回行われています。図書委員ではない方でもクラスの図書委員に注文して頂ければ、申請する事が出来ます。申請する本は小説でなくても構いません。勉強用の本や図解、写真集など許可される本の幅は広いです。(シリーズものと漫画は不可)

私はブックハンティングの際には本屋へ行って気になった本を選ぶのですが、目的無く本を眺めて探してみるのも結構楽しいですよ！

(5E 日野)

令和5年度ブックハンティング図書（一部抜粋）

一冊でわかる東欧史	世界を変えた建築構造の物語	まるわかり！大学編入データブック
世界の工場廃墟図鑑	余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話	頭のいい人が話す前に考えていること
僕は上手にしゃべれない	三月は深き紅の淵を	圏論
クイズ思考の解体	世界を変えた10のトマト	火星の人
口訳古事記	粉100、水50でつくるすいとん	ラーゲリより愛を込めて
ITビジネスの原理	明日の僕に風が吹く	Counterexamples in topology
ウェルテルタウンでやすらかに	手+足の美術解剖学	モチベーション革命 稼ぐために働きたくない世代の解体書

おすすめの本紹介

『おすすめの本紹介』とは、皆さんがおすすめしたい本を紹介できるシステムです。紹介文の形態は文書でもイラストでもポップでもなんでもアリです。そして、みなさんが提出した紹介文は図書館に飾らせていただきます。

ぜひ、あなたのおすすめの本をみんなに教えてあげてください。

(4M 工藤)

おすすめの本

陽気なギャングが地球を回す

私が紹介する本は「陽気なギャングが地球を回す」です。

あらすじ：嘘を見抜く名人・成瀬、天才スリ・久遠、演説の達人・響野、精確な体内時計を持つ女・雪子の4人はその能力を活かして、百発百中の銀行強盗として荒稼ぎしていた。しかしある日の強盗の逃走中に同じく逃走中の別の現金輸送車襲撃犯に遭遇してしまい、儲けを横取りされてしまう。儲けを奪還するために動き出す4人だったが、次第に別の事件にも巻き込まれていき…!?

伊坂幸太郎さんの小説は読んだことがある人も多いのではないのでしょうか、「グラスホッパー」や「重力ピエロ」など映像化されている作品も多いです。この作品はサスペンスとしてもとても面白いのですが、一番の特徴は登場人物の軽快な会話です。特に演説の達人・響野と成瀬は旧来の友人らしく、子気味良い会話が繰り返され読んでいて楽しいです。物語も散りばめられた謎に怒涛の伏線回収と盛りだくさん！そんな都会派コメディサスペンスの本作、ぜひご一読ください。

(5E 日野)

絵を見る技術：名画の構造を読み解く

時折、美術館に行くとき悔しくありませんか？ そのワケは、おそらく有名ですごいアートが目の前に並べられているにも関わらず、その凄さがあまり分からないからです。そんな時に助けてくれるのがこの本です。一般的に、美術を読み解くにはそのバックグラウンドに関する知識や教養があると思われがちですが、この本はもっぱら美術の「構造」を読み解く方法について解説をしています。大学などで芸術を学んだ人は絵画のどこを見ているのか、名画が名画と呼ばれる由縁とは何かといったさまざまな解説は、今すぐ美術館に行きたくなるほどおもしろいです。

美術館の敷居の高さに困っている人は、ぜひ読んでみてください。それに、美術館の料金が安い学生は興味がなくとも行ってみるとお得です。

(4M 工藤)



思い出の一冊



私の本棚のこと

一般科文系 内田 龍之介

学生時代、書店や古本市での城山三郎と山崎豊子との出会いに心が躍った。城山の『官僚たちの夏』の影響で、授業にて通産官僚は大臣よりも指導力があると説明してしまう。山崎の『白い巨塔』は何度も原作と映像作品に没頭した。大阪大学と聞くと浪速大学を連想し、裁判所には「それは嘘です！」と叫ぶ傍聴人がいるものと思っている。ある日、我が指導教授が用事で研究室を不在にした隙に、私は教授の椅子に座り、香川出身の後輩院生に対して財前五郎のごとく振舞った。傲岸不遜にレジュメにケチをつけてやったのである。ただ、思いのほか早く教授は戻ってきてしまい、「財前役はまだ早いな。しかしまずは画廊へ行くことだね」と第一外科ごっこを見破られてしまった。なお、当日の演習にて指導教授は私に対して、大河内教授よろしく鋭く指導をされた(田宮版で演じた名優、加藤嘉を彷彿させた)。

さて、山崎の戦争三部作から『大地の子』を思い出の一冊とする。中国東北部に開拓団として生活していた主人公はソ連参戦を契機に孤児として中国に残される。松本勝男は陸一心として生きていくのである。創作ながらも、実在の人物や組織と思われる描写があり、歴史を味わった。一心が実父の自宅にある仏壇にて実母を拝む場面では、その無念さを思い、むせ返った。度重なる困難を耐える一心の姿は私の心を動かし、教訓を授けた。恥ずかしながらこの作品に触れるまで残留孤児に関する深い知識はなかったが、孤児や戦地からの帰還に関する記事や書籍に触れるようになった。また長野県阿智村の満蒙開拓平和記念館や長岳寺を訪ね、知見をさらに広めるきっかけを得ることができた。

紙幅の関係から城山の『男子の本懐』を紹介できないが、主人公の一人である井上準之助は日田出身で、酒蔵を営む生家には資料や城山の原稿が展示されている。城山と山崎の作品には、激動の政治、経済、歴史を駆け巡る人間がいる。熱心な読者ともなれば、手に汗握りながら登場人物を追い、何らかの行動に移るであろう。まずは図書館で一読を！



農村の幸せ、都会の幸せ 家族・食・暮らし

一般科文系 桑山 隼人

みなさんは「道の駅」をご存じでしょうか？道路利用者の休憩施設であり、利用者とその地域のふれあいの場としても活用されています。大分県内にも佐賀関や湯布院などにあります。私が紹介する本の著者は、この「道の駅」の命名者である熊本大学名誉教授の徳野貞雄先生です。私は大学3年時に徳野先生の「社会学」の講義を受講しました。インパクトある風貌や軽快でパワフルな語り口の講義には、実に多くの学びがあり、私の視野を広げてくださいました。その社会学の講義の内容がこの本の中にあるのです。

この本は、農業を中心に日本の歴史、食文化、政策など多くの分野に言及しています。大分県の「一村一品運動」や福岡県の「合鴨農業」も取り上げ、その功罪を分析しています。特に都市・環境工学科の皆さんは、環境や地域政策の点で参考になりうるかもしれません。

私が最も感銘を受けたのは「家族」に関する見解です。現代は介護や少子化、虐待など家族が抱える社会問題が数多く見られます。その問題が顕在化するきっかけの一つが、「家族機能の崩壊」だと説いています。特に高度経済成長により交通が発達し、人々は容易に移動できるようになりました。すると、単身赴任や一人暮らしの学生が増えます。これまで、家族が担ってきた衣食住は第3次産業が代行してくれるのです。そのため、家族の機能はだんだんと薄れていき、機能不全に陥っていると述べています。

徳野先生は、読みやすく飾らない文章で論じておられます。ぜひ手に取って、これから広い世界に旅立っていく皆さんにとって、社会科学だけでなく、生活する上での視野を広げてほしいと願っています。



蝉しぐれ

一般科文系 野間 由梨花

英文学、しかも『フランケンシュタイン』を研究していますといった手前、イギリス文学作品を紹介するのが筋なのかもしれませんが、思い出の一冊となれば話は違います。本を読むことを決して好きだとは言えなかった私が、文学の魅力に気づくことができたのは、間違いなくこの作品のおかげなのです。

中学3年生になったところから少しずつ日本の文学作品が面白いと感じていた私は、芥川龍之介や太宰治の作品を好んで読んでいました(今でも少し暗めで、ドロツとしたえぐみのある作品を好む傾向にあります)

す)。高校生になり、国語の先生と仲良くなったことで、国語の時間に読んだ物語の感想を話したり、好きな作品の話をしたりが徐々に増えたのです。ある日、先生のデスク横に置いてあった小さな本棚から、好きな本を一冊貸してあげるから選びなさいと促されました。そして、その時手に取ったのが藤沢周平の『蝉しぐれ』でした。

時代小説という新たなジャンルで、果たして読み切れるだろうかという心配は一瞬で立ち消えました。陰謀に巻き込まれ切腹を命じられた父親、罪人の息子として生きることを余儀なくされた主人公・文四郎、幼馴染との友情と恋。読み始めるとページをめくる手が止まらなくなり、朝から机に向かっていたことを忘れるほどの面白さに感動しました。何よりも驚いたのが、藤沢周平の表現力、特に風景描写は圧巻の一言です。ティッシュをひと箱使い切るほどに涙し、そのまま読了したことを昨日のことに覚えています。

さて、『蝉しぐれ』が思い出の一冊である理由はこれだけではありません。本を返しに行くとき、先生は「その本はあげるから、初めて長編小説を読み切った記念の作品として持っておきなさい」と言うのです。もちろん今でもその本は私の本棚の中にあり、私にとってお守りのような存在、そして忘れることのない思い出の一冊です。



放浪の天才数学者エルデシュ

一般科理系 伊野 翔次

発表した論文数史上二位、偉大な数学者ポール・エルデシュ（1913-1996、ハンガリー）の伝記です。私が高校生のときに、大学の数学科に通っていた兄の本棚から手に取り、学問としての数学に興味を持つきっかけになった本です。エルデシュは変人が多いとされる数学者の中でも特に変わり者とされており、その面白い話が色々と紹介されています。ある日、友人との食事中にカリフォルニアにいる数学者の名前が話に出ると、エルデシュはその人と一緒に解いていた問題が気になり、相手に電話をかけ始めます。友人が「カリフォルニアはまだ午前5時だよ」と止めに入ると、それに対し「良かった。それなら、間違いなく家にいるな」と。エルデシュは最も多くの共著者を持つ数学者でもあり、その多さから数学者の中では「エルデシュ数」というものが話題にあがります。エルデシュといっしょに論文を書いたものにはエルデシュ数1が与えられ、エルデシュ数1のものといっしょに論文を書いたものにはエルデシュ数2、…といった調子でエルデシュ数が与えられていきます。多くの数学者がエルデシュ数を持ち、エルデシュの偉大さを実感することができます。実際に分野も異なる私のようなものでもエルデシュ数4を持っています。その他にも、この本では多くの数学者や戦時中のハンガリーの悲惨さを、エルデシュを介して知ることができます。この本を読むまで「数学を研究する」ことの意味を全く分かっていなかったのですが、エルデシュの研究活動の一端に触れたところ、やっぱり当時の私には全く分かりませんでした。しかし、数学的な内容は理解できずとも、読むに値する本だとお勧めします。中古や英語版もあるので是非。



オイラーの贈物 人類の至宝 $e^{i\pi} = -1$ を学ぶ

一般科理系 倉持 凜人

子供の頃は理系の本だけではなく物語なども読んでいたものの、大学3年生になると専門書や論文ばかり読むようになりました。遠い記憶をたどりつつ紹介すべき「思い出の一冊」というものを何だろうと考えると、やはり、私が高校から大学1年生の間に読んだ本の中で最初に思いついた本であろうと思い、この本を紹介いたします。これは、1つのテーマ（ $e^{i\pi} + 1 = 0$ という大変有名な公式）について理解するために、数学の分類や分野にこだわらず、かつ、他の本を読むことなく、筋道立てて数学を学ぶことを目標にした本です。

さて、なぜこの本を紹介しようと思いついたのかですが、分野に依らず、ストーリーを考えることがその分野を理解するための大きな助けになると私が考えるようになったきっかけの本だからです。高校時代、私にとって数学は、図形や微分・積分、ベクトル…と様々な分野が乱立し、それぞれが独立なものでした。数学は分野ごとのまとまりがよい学問ですが、各分野のつながりがわからないまま学んでいくと、自分の直感に合わない分野に遭遇した途端に難しくものになってしまいます。しかしながら、各分野のつながりを掴めているのならば、自分の直感に合う分野に話を置き換えて思考することでこの問題は解決できます。私にとってこの本は、数学の各分野のつながりを掴むきっかけであり、つながりをイメージするためには物語を考えればよいのだという気づきを与えてくれるものでした。

物事のつながりを掴むことは、人生の様々な状況において助けになってくれると思いますので、この本がその参考になれば幸いです。蛇足ながら、この本は大学の物理学を始める上で必要な数学がよい具合にまとまっているので、今までに習った数学の内容を上手く整理して物理学に触れたいと思っている高専生にもおすすめです。

教員推薦図書

今年度、各学科から学生向けに推薦された図書の紹介です。図書館内の教員推薦図書コーナーに展示しています。

一般科文系

TOEIC® L&Rテスト YBM超実戦模試リスニング1000問	手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム別巻 君たちのための自由論 ゲリラ的な学びのすすめ	堤未果のショック・ドクトリン 科学技術の軍事利用
TOEIC® L&Rテスト YBM超実戦模試リーディング1000問	街場の成熟論 源氏物語 解剖図鑑	ブア・ジャパン 年収443万円
IDP Education IELTS 公認問題集	百人一首 解剖図鑑	証言集 関東大震災の直後
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認・本番形式問題3回分	陰陽師の解剖図鑑	資本主義は私たちをなぜ幸せにしないのか
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認問題集	日本の仏様 解剖図鑑	「戦前」の正体
ETS公認ガイド TOEFL iBT	日本の神様 解剖図鑑	地図でスッと頭に入る 世界の民族と紛争
新・最強のTOEFL iBT®入門	日本の装束 解剖図鑑	君が戦争を欲しないならば
世界文学をケアで読み解く	日本の合戦 解剖図鑑	軌道 福知山線脱線事故 JR西日本を変えた闘い
インターセクショナリティ	哲学の解剖図鑑	日本の地方議会 都市のジレンマ、消滅危機の町村
武道論	源氏物語 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典	行政学
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム①	紫式部日記 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典	安倍晋三回顧録
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム②	光る君へ 前編	政治はケンカだ！ 明石市長の12年
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム③	NHK大河ドラマ 歴史ハンドブック 光る君へ 紫式部とその時代	マスメディアとは何か 「影響力」の正体
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム④		農村政策の変貌 その軌跡と新たな構想
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム⑤	検証ナチスは「良いこと」もしたのか？	戦後日本政治史 占領期から「ネオ55年体制」まで
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム⑥	戦争は女の顔をしていない 4	自民党 「一強」の実像
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム⑦	マンガ大地の子 5	関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム⑧	自民党の統一教会汚染	JRは生まれ変わるか 国鉄改革の功罪
手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム⑨	イギリス文化入門	

機械工学科

動物たちは何をしゃべっているのか？	言葉の本質	語学の天才まで1億光年
青春を山に賭けて	ことはどう生まれ、進化したか	

電気電子工学科

磁性複合材料 圧粉磁心とボンド磁石	図解入門業界研究 最新ファッション業界の 動向がよ〜くわかる本	物性科学入門シリーズ 超伝導入門
基礎半導体工学		物性科学入門シリーズ 液晶・高分子入門
光学素子のいろは 機能別分類による説明	図解入門業界研究 最新医薬品業界の動向と カラクリがよ〜くわかる本	視覚と照明
これなら解ける 電気数学 実験でアプローチ		分光法シリーズ 赤外分光法
バイオ計測のための材料と微細加工	図解入門 よ〜くわかる最新プラスチックの仕組みとはたらき	分光法シリーズ X線分光法
色彩工学の基礎と応用	図解入門 よ〜くわかる最新有機化学の基本と仕組み	分光法シリーズ 紫外可視・蛍光分光法
図解入門業界研究 最新電子部品産業の動向 とカラクリがよ〜くわかる本	図解入門 よ〜くわかる最新光学の基本と仕組み	分光法シリーズ 材料研究のための分光法
	図解入門 よ〜くわかる最新物理化学の基本と仕組み	ヤリ〜ヴ〜イエー 光エレクトロニクス 基礎編
図解入門業界研究 最新農業の動向と仕組み がよ〜くわかる本	図解入門 よ〜くわかる最新テスターの基本と実践	誤差がわかれば実験データがいきる 技術者と科学者のための不確かさ解析
	電気・電子工学ライブラリ 電気電子材料工学	
図解入門業界研究 最新小売業界の動向とカ ラクリがよ〜くわかる本	物性科学入門シリーズ 電気伝導入門	希土類とアクチノイドの化学
	物性科学入門シリーズ 物質構造と誘電体入門	

都市・環境工学科

橋を楽しむ 歴史で迎える日本の橋・中国古代橋梁・韓国伝統橋	フランスのウォークラブルシティ 歩きたくなる都市のデザイン	アフターコロナの都市計画 変化に対応するための地域主導型改革
アクアライン 知られざる姿	MaaSが都市を変える 移動×都市DXの最前線	まちづくりの統計学 政策づくりのためのデータの見方・使い方
インフラメンテナンス 日本列島365日、道路はこうして守られている	タクティカル・アーバンイズム・ガイド 市民が考える都市デザインの戦術	[新版]図説 城下町都市
トンネル誕生	北欧のパブリックスペース 街のアクティビティを豊かにするデザイン	Digital General Construction 建設業の“望ましい”未来
Civil Engineers 土木の肖像	北欧のスマートシティ テクノロジーを活用したウェルビーイングな都市づくり	ダム大百科 国土を造る巨大構造物を見る・知る・楽しむ!
施工がわかるイラスト土木入門	都市を学ぶ人のためのキーワード事典 これからを見通すテーマ24	演習土質力学
DISCOVER DOBOKU 土木が好きになる22の物語	都市計画の構造転換 整・開・保からマネジメントまで	ゼロからはじめる [構造力学] 演習
日本の構造デザインガイドブック	ネイバーフッドデザイン — まちを楽しみ、助け合う「暮らしのコミュニティ」のつくりかた	水理学演習
東京の美しいドボク鑑賞術	Smart City 5.0 地方創生を加速する都市 OS	土木練習帳 コンクリート工学
SDGs時代の地方都市圏の交通まちづくり		環境計量士(濃度関係) 環境計量に関する基礎知識 解説と対策(化学)
地域再生と社会創造 未来をつくる地方建設		わかる! 解ける! 公害防止管理者試験 水質関係 テキスト+問題集
ローカルゼネコンの素顔 誇りある眼差しの先に		
街歩きと都市の様相 空間体験の全体性を読み解く		

読書感想文コンクール 及び 図書貸出上位者・クラス表彰式

令和5年度 読書感想文コンクール及び図書貸出上位者・上位クラス表彰式が、大分高専レクチャーホールで令和6年1月22日(月)に行われました。

読書感想文コンクール受賞者10名、図書貸出上位者10名、図書貸出上位クラス3クラスに、山口校長から表彰状・記念品等が贈呈されました。

山口校長からの挨拶では、令和5年度の読書感想文コンクールは1年生全員の応募作品の中から上位10人が選ばれており、どれも素晴らしい作品であることを話されました。読書感想文を通して本の内容や自分に向き合い、本校の学習・教育目標の一つである「愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける」ことへ繋げてほしいとおっしゃいました。

また、学生達は約85,800冊の蔵書がある図書館を自由に利用できるという恵まれた環境を活用して、読書や学習に励んでほしいと述べられました。

最後に、この図書館だよりへの期待を述べられるとともに、読書感想文コンクールに参加してくれた学生や、図書館を活発に利用してくれた学生、及び学生図書委員会への感謝の言葉がありました。



令和5年度 読書感想文コンクール

入選作品

ツナグ

辻村 深月

今ある幸せをあたりまえの
ように過ごす私達へ

1E 岡崎 結

私がこの本を手にとったのは、「ツナグ」と書かれたシンプルで綺麗な表紙に惹きつけられたからである。作中での、嫉妬や後悔、安堵、喜びなど人間の様々な感情を繊細に描いた描写に強く心を打たれ、この本を選ぶことにした。

この本は、「^{ツナグ}使者」の少年、死者との再会を願う「生者」、そして再会を願われた「死者」の物語だ。「使者」とは、一度だけ「死者と会いたい」という生者の願いを叶えることの出来る人物で、生者は、使者の仲介のもと、死者との再会を遂げる。

「もし、一度だけ死者に会うことが出来るのなら、誰に会おうか。」この本を読んでいる時、私はこのことを無意識に考えていた。作中で、生者が再会を願った死者は、恋人や親友、親など、生者と深い関わりのある者ばかりだった。一方で私はどうだろうか。考えてみると、両親も兄弟も友人も、私は大切な人を誰一人失ったことがない。私はそのことに気付いて、自分はとても幸せ者だと強く実感した。しかし、人間にはいつか「死」が訪れてしまう。もし、自分の大切な人達が全員亡くなってしまったら、私はもう一度再会することが出来る一人に、誰を選ぶだろうか。私は、何か会うための大きな理由が無い限り、一生かかってでも、その一人を選べないと思った。本当に会いたい、と感じる人が沢山いるからである。だからこそ、今、まだ大切な人を誰一人失っていない時に、沢山話して、笑い合っ、その時間を大切に生きようと思った。

また、私は「会いたって願うのは、生きてる側のエゴじゃないか。」という一人の少年の言葉が印象に残った。この言葉を見て私は、本当にそうだろうか、と思った。確かに共感できる部分もあるが、もし自分が死んで、誰かが会いたいと願ってくれたのなら、私は嬉しいと感じるはずだ。死んでさえも、自分のことを想ってくれて、たった一度きりの再会の機会までも使って会おうとしてくれることほど、幸せなことはないと思うからだ。故に私は、死んだ後にも誰かに想ってもらえる、そんな人になりたいと思った。

そして、この本は五つの物語に分かれているのだが、その中の「親友の心得」という物語もとても印象に残った。この物語の主人公は、プライドが高く嫉妬深い「嵐」と、その親友でとても優しく人気のある「御園」の少女二人だ。この二人は正反対の性格で、例えば何か凄いことをしている人がいる時、嵐は「羨ましい」と妬み、御園は「凄い」と褒めたたえるような人物だった。私はこの物語を読んでいて、自分と嵐に似た部分を感じた。才能のある人を見た時、私の中で「凄い」よりも「羨ましい」という気持ちが先に来ると思ったからである。作中で、嵐は皆から愛想を尽かされ、御園は皆から愛されていた。私は、嵐の様な、嫉妬深い人ではなく、御園の様な、凄いと思ったことは素直に凄いと相手に伝えられるような人になりたいと思った。

最後に、私がこの本を読んで一番感じたことは、「今、あたりまえのように過ごしている日々がとても幸せで、かけがえのないものであるということ」だ。これからは、この日常に感謝を忘れず、一日一日を大切に生きたいと思う。そして、誰かと出会った時、その人の悪い所ではなく、良い所を見い出せるような人に、いつか死んだ時に誰かにもう一度会いたいと願われるような、そんな愛された人になれるよう、沢山の人を想い、これからは生きていきたい。

令和5年度 読書感想文コンクール

入選作品

ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー ブレイディみかこ



多様性とエンパシー

1S 古賀 倫太郎

僕がこの本を読む動機は母の勧めだった。小学生以来の読書感想文ということで、本の内容が難しそうなこの本はどうかと勧められ、読み進めることとなった。

この本は英国に住む、アイルランド人の夫と息子をもつ日本人の著者視点で、「元底辺中学校」に通う息子の中学校生活最初の一年半を書いたものだ。「元底辺中学校」に通う息子は、市の学校ランキング一位の公立カトリック小学校に通っていたが、ひよんなことから小学校とは正反対の、人種も入り交じり貧富の差もある、「元底辺中学校」に通うことになった。そこで息子は、カトリック校ではそれまで経験してこなかったような経済格差や人種問題などに直面し、さまざまな経験をする。そんな経験をライターである著者と相談・解決していくリアルストーリーである。

僕はこの本を読んで、著者が、息子の黒人のクラスメイトの母親に何気なくかけた「どこか休暇(ホリデイ)に出かけるんですか?」という言葉に、黒人の母親が「アフリカには帰らないから、安心しな」と刺すような目つきで答えた場面がとても印象に残っている。

このシーンがある章のタイトルは「地雷だらけの多様性ワールド」であり、このシーンは著者がFGMという地雷をふみぬいてしまったシーンである。僕はこの本で初めてFGMという言葉を知った。多様性が叫ばれ、LGBTQやポリティカル・コレクトネスなどの言葉を頻繁に聞くようになったが、それでも僕の知らない多様性がまだまだ存在することを認識した。普段僕自身、差別意識を抱くようなことは全くなく、もちろんSNS含め他人を不快にさせるような発言はしないよう気を付けている。だが、僕の知らないうちに現代のような多様性ワールドでは、自分では何気ない会話でも相手を不快にさせる可能性があるのだと気づかされた。ただの会話の一部だと思っていたことが、相手にとって地雷になりうるのだ。

そんな地雷に我々はどのように対処すればよいのだろうか。

この本では「エンパシー」という言葉、それと混同されやすい「シンパシー」という言葉についても筆者の見解が書かれていた。シンパシーは「かわいそうな立場の人や問題を抱えた人、自分と似たような意見を持っている人々に対して人間が抱く感情」、エンパシーは「自分と違う理念や信念を持つ人や、別にかわいそうだとは思えない立場の人々が何を考えているのだろうか」と想像する力のこと」としていた。つまり、地雷を踏まないためにはエンパシーが必要不可欠である。また著者は、シンパシーは感情的状態、エンパシーは知的作業としていた。つまり、シンパシーは自然と人が抱く一方、エンパシーは努力して身につける必要があるのだ。

多様性ワールドの難しさはここにあると思う。多様性ワールドで人を傷つけないためには自らが努力しなければならないのだ。この世界にはどのような多様性が存在し、なにがセンシティブな話題になり得るのか。それを自ら受け身ではなく主体的に取り込まなくてはならない。

僕はこの本を読むまで差別用語さえ使わなければ多様性に適合できると思っていたが、この本を読むことで、何気ないところに地雷は埋まっており、多様性ワールドで生き残るためには、それをかわすよう細心の注意を払い、さまざまな多様性について学ぶ努力が必要なのだと気づかされた。僕は、これから日々の会話からエンパシーを養い、増えていくであろう様々な多様性について知識、視野を広げ、他者との違いを尊重・対応できるよう努力しようと思う。

令和5年度 読書感想文コンクール

入選作品

ケーキの切れない非行少年たち

宮口 幸治

「ケーキの切れない非行少年たち」
を読んで

1C 阿南 舞耶

皆ペンギンの視界を知っているだろうか。種類によるが、人が見ることのできない紫外線や赤外線も見えているそうだ。我々人間にとってはただの白い花でも、彼らの世界では青を基調としたカラフルな、人間にとっては不思議な花に見えるのだ。「鳥と人じゃそもそも体の構造が違うのだから、当たり前じゃないか」と思うだろう。しかし、同じ人間同士でも世界の見え方が異なり、それによって苦しんでいる人々がいる。そんな人々にフォーカスを当てた本がこの「ケーキの切れない非行少年たち」である。この本の著者の宮口幸治氏は、児童精神科医として精神科病院や医療少年院に勤務した経歴を持ち、実際に犯罪を犯した少年少女達とのやりとりを基に執筆した。

私がこの本を読んで最も衝撃を受けたのは、ある一つのエピソードである。筆者がある少年の面接をした際に、一つの円をケーキに見立て、三等分するように頼んだそうだ。ペンのマークのように切り分ければよいのだが、その少年は真っ二つに線を引いて悩み、ギブアップしたという。なぜこんなにも簡単な問題が解けないんだろう、と私は思った。しかし、この切り方をする事自体は問題ではない。小さい子にもこういう選択をする子がいる。一番の問題は、この切り方をしてしまうのが少年院の子ども達であるということだ。更生させるための指導を行っても、彼らは理解することすらできないのだ。つまり触法行為に対し反省する以前の問題である。

また、私がこの本を読んで考えさせられたことは、気づかれていないだけで障がいを持っている子どもがいるということだ。周りからは問題児として扱われるような行動——協調性が無い、集中力が欠けている、嘘をつく、忘れ物が多い等——も、その子たちが発しているSOSなのだ。しかし、教育者や保護者でさえも気づけないケースが圧倒的に多いのだ。診断がついてさえいれば周囲の支援も得ることが可能だが、そもそも診療を受けていない、受けていても知的には問題がないとされ、適切に診断されない場合もある。知能指数には境界知能と呼ばれるものがある。知的障がいかそうじゃないかのグレーゾーンに当たる範囲のことだ。境界知能の人々はなおさら気づかれにくく、周りの人からの理解も得づらい。

私がこの本を読んで強く感じたことは、相手に寄り添って対応することがどれだけ大事なのかということである。幼少期から問題行動が目立ち、成長して犯罪に手を染めた非行少年たちに真に必要なのは、「どうしてこんなこともできないのか」という叱責や呆れの言葉ではなく、「どうしてできないのかな」と歩み寄る言葉ではなからうか。周囲になじめない、分かってもらえない、だからこうした。でも何が悪いかわからない、被害者の気持ちも分からない、という負の連鎖に陥ってしまう。百人いれば百個の考え方が存在する。そんな中、相手の考え方の全てを理解することはとても難しいし、理解できると考えるのも傲慢なことだと私は思う。しかし、分かっ

てあげようとする行為そのものに価値があると私は信じる。

令和5年度 読書感想文コンクール

講 評

一般科文系 国語科 山下 航正

今回の上位3作には、共通するテーマがあると思われる。それは、「誰かのために、である。大切な誰かを想う、誰かに寄り添う、誰かのことを知ろうとする。口にするのは簡単で、手垢のついた表現かも知れない。ただ、上位3作は、それぞれ別の書籍—しかも小説・エッセイ・評論というまったく異なるジャンル—から、そこに記されている事柄・問題を「誰かのために」と読み解いて我が身に引き受け、自身の思いを自分なりの表現で紡いだ。佳作となった興味深い作品も多い中で、審査に当たった教員や学生図書委員の票をこの3作が集めるに至った背景には、このテーマの魅力が間違いなくあっただろうと想像する。

一方で、今回の審査に関わらせていただく過程であらためて私が興味・関心を抱いたのは、「言葉」についてであった。そもそも「言葉」とは、人と人が意思のやり取りを行うために生み出されたものである。そして「言葉」は、その「言葉」が用いられるその共同体に深く根付いたものである。よって、「りんご」は「apple」とは異なるし、「pomme」とも「mela」ともまったく違う。日本語を用いる我々にはりんごを「りんご」と呼ぶ(書く)必然があり、それは同じ果物を「apple」や「pomme」や「mela」と呼ぶ(書く)民族の必然とは絶対に異なるのだ。翻訳や異文化交流の核あるいはアポリアは、このことをどれだけ理解するかということにあると、常々考えている。

閑話休題、いや厳密にはそうでもないのだが、「誰かのために、というテーマについて「言葉」を用いて記されたのが、今回の読書感想文コンクールの上位3作だった。そしてその「言葉」とは、人と人が意思のやり取りを行うために生み出されたものだ。我々人間は自身の思考自体を「言葉」によって行い、「言葉」によって表面化させ、自身を見つめ直したり、相手に理解してもらおうとしたりする。「言葉」の存在理由自体が、秋元康氏の詩中の文言を借りるなら「私のために 誰かのために」なのだ。つまり、今回の上位3作は、「誰かのために、という点で二重性を孕んでいたことになる。そのことの意義と重要性を、学ばせてもらった。

哲学者の故・池田晶子氏は、書き下ろしの中学校3年生向けの教科書教材で、「言葉の力とは、まさしく想像する力なのだ。」と記している。「言葉」が何かを具現化する。「言葉」が世界を創る。様々な人々が読書を勧めるのは、「言葉」によって紡がれた内容を知ることの重要性だけでなく、「言葉」そのものを知ることの重要性、また「言葉」を用いることの重要性に気付いて欲しいからである。今後の読書体験が、そしてこれを含めたあらゆる言語活動が、本校の学生にとって有意義なものとなってくれることを、切に願っている。

読書感想文コンクールについて

学生図書委員会委員長 蔵原 晴生

読んだ本について考察して自分と重ね合わせ、また考察し、思ったことや気付いたことを文字にする。読書感想文の難しいところはそこなのですが、選ばれた方は非常に丁寧に記述されています。どの作品も読みやすく、また共感もしやすいです。私は読書感想文を書くのが苦手な人種ですので、読むたび読むたび素晴らしいと思うばかりです。

そんな読書感想文の中、少しでも「ああ確かになあ」と思うものがあれば、ぜひ題材の本を読んでみてください。彼らのような感想が生まれるかも知れませんが、全く違うものを抱くかも知れません。けれどそれはあなたのより良い経験になると、私は思っています。



令和5年度 学生図書委員名簿

Table with 6 columns: 学科/学年, 任期, 機械工学科, 電気電子工学科, 情報工学科, 都市・環境工学科. Rows list members for years 1 through 5, including names like 岩田和馬, 野島あやめ, 岩下夢瑠, 高橋舞優, etc.

* 図書委員は上段が1年任期 ○ 学生図書委員長 ○ 学生図書副委員長

令和5年度 読書感想文コンクール入選者

Table with 5 columns: 順位, クラス, 氏名, 作品名, 書名. Lists winners and their essays, such as 岡崎結 with '今ある幸せをあたりまえのように過ごす私達へ'.

令和5年度 貸出上位者

Table with 4 columns: 順位, クラス, 氏名, 貸出冊数. Lists top borrowers like 中野哲志 (119冊), 高田康之佑 (117冊), etc.

※貸出上位者の集計期間は、2023.04~2023.12

令和5年度 貸出上位クラス

Table with 3 columns: 順位, クラス, 貸出冊数. Lists top classes like 4M (328冊), 1S (287冊), etc.

※貸出上位クラスの集計期間は、2023.04~2023.12



編集後記

「図書館だより」第1号には図書館長として、そして今年度の第2号には図書館長補佐として関わることになりました。昨年、薬師寺先生がここに書いてくださった通り、本校では、年2回発行の明野通信をはじめ、図書館が発行する刊行物が少なくありません。図書館は、本校の広報活動においても、とても重要な役割を担っています。

校務でご多忙なか「図書館だより」への原稿を執筆してくださった教員の皆様、学生図書委員長・副委員長の皆様、そして「図書館だより」の発行も担当して下さる図書係に心よりお礼申し上げます。

図書館長補佐 田中 美穂